

有効期間満了：2011年10月31日

案件名	株式会社シーエーシー本社ビル設備における電力消費（一部）のカーボン・オフセット
申請者	株式会社シーエーシー
案件の概要	シーエーシーは、情報化戦略の立案、システム構築、システム運用管理などの IT サービスを提供している。その業務遂行過程で排出される CO2 排出量を削減するために、チャレンジ25キャンペーンに参加し、エコアクション21の認定取得をめざした実運用をおこなっている。しかしながら、IT 機器の利用そのものに社業が立脚していることから、本社ビルにおける業務遂行上使用不可欠な設備(IT 機器、OA 機器、照明等。空調設備を除く)の電力消費量削減には、いかに努力しても低減できない限界がある。そこで、この電力消費に伴う CO2 排出量のカーボン・オフセットを実施する。なお、カーボン・オフセットの取組は今回で2年目となる。
認証区分・タイミング	I-3（自己活動オフセット） オフセット済み認証
カーボン・オフセットの主体（帰属先）	申請者
算定範囲	対象ビル：シーエーシー本社ビル（地上部分 17 階地下部分 2 階） ※ビル所有者は住友不動産株式会社 対象エリア：B2 階当社使用倉庫と 1 階～10 階及び 12 階～17 階のオフィスエリア(1. 地下 1 階のビル管理施設、地下 2 階の駐車場部分および 3 階、11 階の他社使用エリアを除く。2. 1 階～17 階の共用エリア（洗面所、エレベータ、出入口ゲート等）を除く。)
オフセット量 / 算定排出量	631t/631t
クレジット種別	京都クレジット（CER）
プロジェクト名	NSL 27.65 MW Wind Power Project in Karnataka, India Irani Biomass Electricity Generation Project
無効化日	平成 22 年 11 月 16 日
情報公開	【カーボン・オフセットの仕組みの説明（地球温暖化対策の喫緊性の説明）】 今日 IT 機器は社会に浸透し、必要不可欠なインフラストラクチャとなっています。その一方で IT 機器の消費エネルギーの増大により環境への負荷が急速に増大しており、低炭素化を推進し、持続可能社会を実現することが急務となっています。（*1） カーボン・オフセットとは日常生活や経済活動において避けることがで

きないCO<sub>2</sub>等の温室効果ガスの排出について、まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方です。(\*2)

株式会社シーエーシーは、チャレンジ25キャンペーンに参加しております。今後も省電力モードの活用などによるIT機器の電力消費量削減及び、ノー残業デー推進による電力消費量削減を通じたCO<sub>2</sub>排出量の削減に努めて参ります。しかしながら、社業がITの利用そのものに立脚しているため自己努力のみでは削減困難な631t-CO<sub>2</sub>(\*3)について、今回オフセットを実施することにしました。なお、カーボン・オフセットの取組は、今回で2年目になります。

**【カーボン・オフセット商品等提供主体の削減努力】**

株式会社シーエーシーはエコアクション21を取得すべく、活動しております。この活動の一環として、消費電力の削減、ゴミの削減など、様々な環境への取組を全社で推進しております。

**【オフセットの対象】**

シーエーシーが自社本社ビルのオフィスエリアで使用する、業務遂行上使用不可欠な設備（IT機器、OA機器、照明器。空調設備を除く）の電力消費。

**【算定対象期間】**

2010年11月1日から2011年10月31日

**【算定の根拠としたガイドライン名または算定式等】**

弊社本社ビルにおける、業務遂行上使用不可欠な設備の電力消費量は、2009年10月から2010年9月の1年間で、2,004,074kWhでした。当社では、次年度2.9%の省電力削減目標を設定し、様々な活動を展開する計画です。計画通り削減を達成した場合、今回の算定対象期間においては、1,945,955.854kWhの電力を消費することになります。よって、算定対象期間のCO<sub>2</sub>排出量を、631t-CO<sub>2</sub>(\*3)と試算しております。

**【クレジットタイプの説明】**

京都クレジット（CER）

**【プロジェクト情報】**

以下の2つのプロジェクトによるクレジットを利用します

■プロジェクト1

(1) 事業番号

CDM 事業 (事業番号0998) : NSL 27.65 MW Wind Power Project in Karnataka, India

(2) プロジェクトの排出量削減量(年間平均)

57,248t-CO2 (\*4)

(3) プロジェクト実施国

インド

(4) プロジェクト期間

2001 年4 月1 日 ~ 2011 年3 月31 日

(5) クレジット調達状況

2009 年11 月4 日調達済

■プロジェクト2

(1) 事業番号

CDM 事業 (事業番号0404) : Irani Biomass Electricity Generation Project

(2) プロジェクトの排出量削減量 (年間平均)

173,486t-CO2 (\*5)

(3) プロジェクト実施国

ブラジル

(4) プロジェクト期間

2004 年10 月1 日 ~ 2011 年9 月30 日

(5) クレジット調達状況

2010 年10 月29 日調達済

【カーボン・オフセット主体】

株式会社シーエーシー

【クレジットの無効化方法】

政府償却口座への移転(償却)は、2010 年11 月16 日に完了しております。なお、算定対象期間におけるCO2 排出量がオフセット量を上回った場合は、速やかに追加オフセットを実施いたします。

【カーボン・オフセットの取組】

算定範囲、算定方法、削減努力、排出量の埋合せ等の内容は、活動開始日2010 年11月1 日以降も変更無く取組をおこなっております。

(\*1)グリーンIT 推進協議会「技術検討報告委員会 報告書(2008 年度版)」より抜粋

	<p>(*2) 環境省HP より (<a href="http://www.env.go.jp/earth/ondanka/mechanism/carbon_offset.html">http://www.env.go.jp/earth/ondanka/mechanism/carbon_offset.html</a>)</p> <p>(*3) 「カーボン・オフセットの対象活動から生じるGHG 排出量の算定方法ガイドラインVer1.1」 及び東京電力（株）公表の排出係数を使用して試算 東京電力公表値：<a href="http://www.tepco.co.jp/eco/report/glb/02-j.html">http://www.tepco.co.jp/eco/report/glb/02-j.html</a></p> <p>(*4) (*5) UNFCC のHP を元に算定 URL (*4)：<a href="http://cdm.unfccc.int/Projects/DB/DNV-CUK1173772302.89">http://cdm.unfccc.int/Projects/DB/DNV-CUK1173772302.89</a> (*5)：<a href="http://cdm.unfccc.int/Projects/DB/DNV-CUK1146170596.51">http://cdm.unfccc.int/Projects/DB/DNV-CUK1146170596.51</a></p>
--	--